東北福祉大学　通信教育部スクーリング・アンケート自由記述（抜粋）

精神保健福祉士指定科目（社会福祉士との共通科目を除く）

ここにあげたもの以外にも多くのご感想・ご意見をいただき、ありがとうございます。

●精神医学

・これまで頭の中でごちゃごちゃになってしまっていた、たくさんの疾患や障害について整理・分類され、よく理解できるようになりました。また、講義で触れられた精神障害のさまざまなことに対する根本的な問いかけが大変印象に残りました。

・先生の「福祉は善か」という言葉に、実際に福祉の現場に勤める自分の日々の対応について「福祉の名のもとに相手に不利益を与えてはいないか」と改めて考えさせられました。

・疾病についての授業はもちろんのこと、先生のお話にはいろいろなことを考えさせられました。精神障害のある方への生活支援は患者さん自身に主体があること、その生活のしづらさを支援するための ACT の方法は型にはまらず、患者さんのためを考えた内容であることを改めて学び、自分をしっかり持っていないとできない支援であると感じました。

・先生のご経験に基づくお話を聞け、大変勉強になりました。先生の告知に対する姿勢や障害受容の考え方に、自分の今までの考え方や捉え方の浅さを反省させられました。

●精神保健福祉援助技術各論

・クライエントが抱える疾患も問題も、その当事者には何の責任もないのだということを改めて気付かされた。ケースワーク、グループワークという技術を身につけ、少しでも力になりたいと考えさせられる授業であった。

・ジェノグラムはただの記録ではなく、非常に多くの情報を含んでいることがわかった。人だけでなく、人と環境の接点に介入するという話が印象に残った。

・先生の体験に基づいたお話はとてもよかった。「患者は働きかけによって変化する。何もしなければ、関わらなければそのまま」というクライエントの話は心に響いた。

●精神保健福祉援助技術総論Ⅰ（精神保健福祉援助技術総論・前半）

・SST の現場を実際に見る機会が少なかったため、病院・地域・家族などさまざまな現場の様子を見ることができて勉強になりました。

・ストレングスモデルやエンパワメントがいかに大切か改めて学びました。SST や ACT、ケアマネジメントなどにも、利用者さんの持つ力を信じたり、引き出したりすることが必

ず関わっていることに気づき、そのひとのありのままを見て、可能性を信じる習慣をつけていきたいと思いました。
・地域にあるニーズや SOS を当事者が問題意識を持っていなくともアウトリーチしていかなければならないという先生のお話を聞いて、実際に現場に出ていない私はそこまでできるのかと不安になりましたが、精神障害者の地域移行支援にも大きくつながることだと考えるので、アウトリーチもしっかり学習していきたいと感じました。

●精神保健福祉援助技術総論Ⅱ（精神保健福祉援助技術総論・後半）
・ストレングスモデルやエンパワメントがいかに大切か改めて感じた。ＳＳＴやＡＣＴ、ケアマネジメントにも利用者さんの持つ力を信じたり、引き出したりすることが必ず関わっていて、自分の価値観をいったんはずして、その人をありのままに見て、可能性を信じる習慣をつけていきたいと思った。
・利用者には力があり、それをエンパワメントできることによりその人らしい生活へと繋がっていくということ、又、正のフィードバックについても意識させられた。自分をいかにエンパワメントしていくこと、自己肯定感を維持していくことの必要性も考えさせられた。
・相談支援のスタートとなる「ケースワークの発見」について、支援を必要としている人を探し出すことも精保士の大切な役割だということを感じさせられた。

●精神保健福祉の理論（精神保健福祉論Ⅰ）
・精神保健とは、精神疾患にかかっている人に限らず、すべての人に関わることであることが大変よく理解できました。仕事に限らず、身の回りの人、家族とのかかわりの中でも大変必要な理解であると感じました。

●精神科リハビリテーション学
・「誰もが障害を持っている、それを隠しながら生きている」ということ。ストーンと腹に落ちた。大事なのはこの感覚を忘れないこと。今まで精神保健福祉士としての適性があるのか迷っていたが、この迷いが消える授業だった。教科書では学べない大切なことを学ぶことができたと思う。
・就労意欲のある人については、一歩下がって多面的に対応する、というお話が印象に残り、改めてソーシャルワーカーの役割について考えさせられました。
・利用者との関係で依存的にならないこと、一定の距離をとること。これまで職場では、精神障害をもつ利用者に対して複数の対応者がいることは良くないといわれており、少し重荷に感じていたところがあった。複数のスタッフで対応することができれば、もう少し関わりが楽になること、利用者から対応の担当を断られたりすることも決して悪いことではないということが分かり、気持ちが楽になった。スーパーバイザーはやはり必

要だと思った。

●精神保健福祉のサービス（精神保健福祉論Ⅱ）

・「当事者が主役」ということの意味と、「生活の中で生きるとは」について丁寧に説明いただき、心に染み入る内容でした。また、精神保健福祉のサービスに関する知識以外にも当事者をどのように支援するのかの深い意識や考え方、当事者や社会環境への見方へのヒントを数多くいただきました。

●精神保健福祉の制度（精神保健福祉論Ⅲ）

・講義の中で、イタコさんが国の自殺対策の活動に貢献されている地域があることを知り、とても興味深かったです。私たちそれぞれの地域にもまだまだ資源が眠っているのではないかと感じます。

・精神障害者の住居や就労先の受け入れ拡大、事業所の開拓など、必要性の高さを実感し、今後について考えさせられました。

●精神保健福祉援助演習Ａ

・スクーリングで行われた幻聴体験は、いかに当事者が日々気を張って過ごしているのかということを改めて考えさせられた。勤務先にも幻聴が強い利用者がおり、その世界を少しでも共有できたことは非常によい経験だった。

・利用者と関わっている中で何かの結論が出たときに、それには根拠があるのか、正しいことなのか、を考えることの重要性を学ぶことができたと思います。

●精神保健福祉援助演習Ｂ

・「自己決定」の尊重を意識し、現場で利用者と関わってきましたが、それを実行するための「手順」と「戦略」がいかに重要なのかを改めて確認することができました。プロであることを自覚し、再び現場で活かしていきたいと思います。

●精神保健福祉援助演習Ｂ−１＋実習指導Ａ−１

・先生の説明が温かで分かりやすく、難しく感じていた実習計画についても、とても楽しくスクーリングを受けることができました。先生が生活者としての視点を大事にされていることが伝わりました。

●精神保健福祉援助演習Ｂ−２＋実習指導Ａ−２＋帰校指導

・グループワークがとても楽しかったです。ゆったりした雰囲気で、実習体験を基にした分かりやすいスクーリングでした。次年度の実習に向けて、具体的な課題を持てるようになりました。

●精神保健福祉援助演習Ｃ

・ICF の活用が難しかったですが、今回の授業で学んだことをきちんと復習したいと思いました。

●精神保健福祉援助演習Ｃ−１＋実習指導Ｂ−１

・グループワークにおいて気づかされたことが多かったです。

●精神保健福祉援助演習Ｃ−２＋実習指導Ｂ−２

・自分が面接している場面をビデオで撮るライブスーパービジョンが非常に勉強になりました。自分の視線の泳ぎ方がよく分かり、相手に安心感を与えるような話し方ができるようにしたいと感じました。

●精神保健福祉援助実習（事前指導）

・「あの人は△△な人」という情報があっても鵜呑みにするのではなく、疑ってみる必要があること、ニーズ把握においても先入観を捨て、多面的な視点で情報収集することが大事であることを学びました。

●精神保健福祉援助実習（事後指導）

・「PSW は神経質であったほうが良い」ということを先生から聞き、自分が神経質なところをマイナスに捉えていましたが、今後はそこも社会資源の１つとして援助に活かしていきたいと前向きに考えることができるようになったように思います。

●精神保健福祉援助演習

・自分が持っている障害者観について、改めて考えることができました。こちらの表現 1 つで相手の受け取り方が違うことが分かりました。